

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは5号館		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 5日		～ 令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 2日		～ 令和 8年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 2月 5日		～ 令和 8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い多職種連携による支援 専門職が多く、多角的な視点での療育内容の情報提供が可能かと思えます。	言語聴覚士、理学療法士、作業療法士などの複数の専門職で情報を共有し、多角的な視点から発達状況の評価や具体的な支援方法の提案を行っております。	事例検討会を定期的実施し、多職種間での支援方法の共有と意見交換を通じて、チーム全体の支援力を向上させたいと考えております。
2	言語・発達特性に特化した専門的アプローチ 療育内容が確立されており、評価視点や療育時の理論などが明確となっております。	インリアルアプローチ、感覚統合理論、ABA（応用行動分析）などの専門的手法を活用し、個々の児童に適した支援を選択しております。	支援記録の情報共有を効率化し、蓄積した情報を分析することで、支援効果の検証や支援品質のさらなる向上に活用したいと考えております。
3	直接・間接支援を合わせた包括的アプローチ 専門職により、直接児童に触れたり直接支援に加わる事が可能です。また間接的な支援として、客観的な評価を加えながら訪問先施設へのご提案が可能です。	児童への直接的な関わりと、訪問先施設の保育士等への助言・指導を組み合わせることで、園や学校生活における支援の定着を目指しております。	保護者や訪問先施設からのニーズを徹底して把握するため、定期的なアンケートやヒアリングを実施し、支援内容の調整や改善を迅速に行う体制を整えていきたいと思えます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の人員不足 訪問事業の利用希望人数に対して、即時に対応が出来ず、利用開始時期をこちらで設定させて頂いている状況となっております。	支援員が不足しており、一人での訪問対応が限界に近いと思えます。訪問回数の確保や支援の質の維持が困難な状態にあるかと思えます。	訪問スタッフの増員や配置転換を検討するとともに、現職員の訪問スキル強化や評価スキルアップのための研修プログラムを定期的実施したいと思います。
2	訪問先施設との連携・情報共有の時間的制約 訪問先での支援を終えた後に、申し送り等を行う時間が捻出出来ないケースがあります。その後訪問支援スタッフも療育に入る事が、申し送り完了までに日を跨いだりなど時間を要する事があります。	園との事前調整や情報共有の時間を確保することが難しく、限られた時間内での対応となっております。	共通の評価ツールの活用やデジタルツール（Official LINE等）の導入により、リアルタイムでの情報交換や記録共有が可能な環境を整備したいと思います。
3	地域連携・情報発信の不足 訪問の支援内容についての共通理解や、どういった点を評価し対応を検討しているなどの発信が不足しているように感じました。	自立支援協議会等の地域会議への参加や、保護者・関係機関へ向けた定期的な情報発信（通信・ホームページ等）が十分に行えていない現状にあるかと思えます。	地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加するとともに、SNS（Instagram等）や通信を活用し、活動概要の発信を強化していきたいと思えます。